

# 比庵佳境の会

2023年3月  
会報第19号

清水比庵生誕  
140周年

「比庵佳境の会」会報第十九号  
発行にあたって

会長 清水 固

生誕一四〇年清水比庵展

笠岡市 豊池 勇

会員の皆様！ 今年は比庵生誕一四〇年の記念の年で、これを記念して昨年九月に今年の比庵カレンダー（一〇〇〇円／冊）を作成して、多くの会員様や比庵ファンの方々から好評でした。四〇〇冊印刷しました。

また昨年十一月二十二日（火）午後と二十三日（水 祝日）午前・午後、私の住居地区（横浜市栄区庄戸）の庄戸会館で比庵展を開催し多くの方に見て貰いました。

昨年は「比庵佳境の会」のHPを作り、一号から十八号までの会報、上記栄区庄戸会館での比庵展、今年（二〇二三年）首都圏及び比庵のふるさと岡山県で開催される（されている）合計八回の清水比庵展案内などを記載しておりますので是非ご覧ください。

この八回の比庵展の内、比庵のふるさと岡山県高梁市歴史美術館比庵展では初日（二月十八日 土）のスタートに、私とアメリカ在住の妹（ワーズン充子 ミツコ）が、来館した観衆にオンラインで話をしました。高梁の他、横浜・埼玉・日光・笠岡・倉敷・真庭・岡山の合計八都市での比庵展は、夫々色々工夫して開催されるので、地元に近い皆様は是非お出掛けください。また比庵に関するご質問などがあれば、会長の私へメール、電話またはお手紙でご連絡下さい。会員でない方も結構です。

なお清水 固の連絡先とHPのURLは巻末をご覧ください。

二〇二三年に各地で「生誕一四〇年清水比庵展」が開催されます。それらが巡回展ではなく各々の展覧会が独立した企画による別々の展覧会であると云う事実が驚きます。その展示内容も展示作品も全て異なっています。これは誠に珍しい出来事です。

出来事は語り継がれて伝説になります。芸術は面白い継がれて文化となります。比庵がこの世を去ってから半世紀になろうとしています。生前に「比庵先生」とお呼びし親しく接した人も、その多くの方が他界しています。

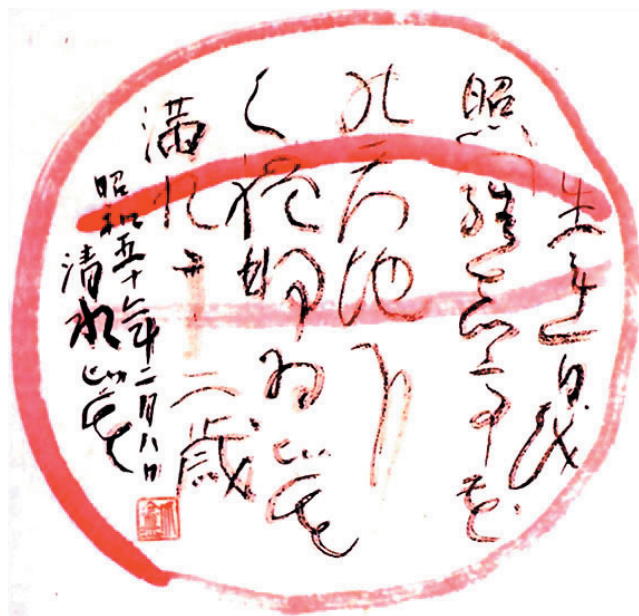
過日に清水 固さんが私に「あなたは生前の比庵を知る貴重な人だね」と話されました。思い起せば中学生の頃から父に連れられて比庵先生を身近に感じて来ました。その当時の大人は父を含めて既にこの世にいません。

「生誕一四〇年清水比庵展」として比庵芸術が展開されると云う事実は清水比庵がいなくなっても、新しい愛好家・鑑賞者が現在も生まれ続けている事を物語っています。

同じ作品は一つとしてありません。様々な会場に足を運び、様々な展示を鑑賞されますようにお勧めします。あなたが初めて接する新しい清水比庵の歌に出合うことが出来ると思います。

私の好きな比庵先生の歌  
年々によき年なれと祈りつつ

拾いし年の積もりたるかも  
雨ほしき時に雨あり 風厭う時に風なく  
豊の年今年は



生れ日

（最後の誕生日）

生まれ日を

照らして花の 天地に

くれなる比庵

満九十二歳

昭和五十年二月八日  
清水比庵

病臥五十日

（事実上の辞世）

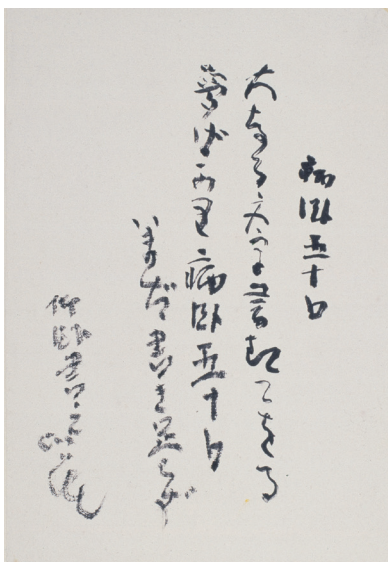
大なる文字書きてをる夢

ばかり病臥五十日

いまだ書き足らず

仰臥書之 比庵

九十二歳 満九十二歳  
高梁市歴史美術館蔵



## 清水比庵とキリスト教

(清水比庵生誕)

比庵佳境の会 坂口隆

はじめに

今回は清水比庵生前、つまり清水秀の歌人になる以前のお話を綴ったが、この度も機会を頂いたので清水秀の歌人としての人生について書いて見たいと思う。

比庵は魚崎時代の歌を『比庵晴れ』の中に残している。比庵の歌人としての人生の原点はこの時期にあつたのではと考えている。

魚崎を後にした清水秀は、古河金属の横浜工場に勤めることになるが、この時は銀行時代の経歴を生かした会計課長として赴任したのだった。丁度この頃、娘の明子も神戸女学院を卒業して横浜に戻っている。

明子によると大きな庭に無花果が植っていたとあり、かなり大きな家に住んで居たのではないかと想像している。

場所は三ツ沢。現在は横浜市の三ツ沢グラウンドの辺りであつて、古河電工の三ツ沢社宅が存在していたが二〇二〇年横浜市市民病院の再開発のために横浜市に譲渡された。

三ツ沢から古河電工の横浜事業所まで歩いてみたが、約三十分の距離だった。当時の面影はないが、ここに清水秀が住んで居たのだと思うと感慨深いものがある。

この後清水秀は、日光市にある古河電工の日光精錬所に単身赴任で勤務になるのだった。

◇  
転勤をした秀は会計課長をしながら、社内で短歌会を結成したり、作歌の勉強をしたりして短歌の腕を磨いていくのだった。

そして、日光町で「二荒短歌会」を主宰し、更に処女歌集を昭和三年、世に送り出している。この時の歌集は「夕暮」であり、雅号・清水ヒ舟の名前で発刊している。現存する「夕暮」は目にする事が出来ない。

この歌集に刺激された近隣の学校の先生や、日光精錬所のメンバーが続々と集まって二荒短歌会は規模を大きくしていくのだった。

第二号からは、小杉放菴が二荒誌の表紙の絵を描くなど、当時から清水秀が如何に沢山の文化人と交流していたかが分かるのだった。

二荒短歌会の発足とほぼ同時に後々歌の仲間となつて行く、石川暮人が「下野短歌」を主宰している。

当時は同じ日光町に、二つの短歌会が存在したことになる。

そしてこの年、昭和三年、清水秀は早期退職をして横浜に残した家族の元に戻っている。

◇  
昭和五年

清水秀は日光町の要請で、再び日光の町に戻ることになる。

理由は「日光町からの要請で日光町長への就任依頼」だったそうである。

清水秀はこの時、「歌人としての活動を認めてくれるのであれば就任する」という約束

を取り付けて就任している。

そして町長になった清水秀は観光課を設置し、スケートリンクを新設したり、有名人を日光に招待したり観光に力を注いで、日光観光の魁を築いていくのだった。

この時期に第二歌集「朝明」を世に送り出している。「朝明」には日光時代の生活の残像が手に取るように記載されていて、清水秀の生活の原点を見ているようである。

◇  
昭和十年

清水ヒ舟から清水比庵に雅号を改名している。いよいよ清水比庵の誕生である。

そしてこの間に明子は結婚して、千葉県市川市に移り住んでいる。この場所と駒込界隈は、清水比庵の活動の拠点となつて行くのだった。

◇  
昭和十四年

日光町長を辞任した清水秀は千葉県市川市に戻り、これからの人生を歌・書・画の道で生きると宣言している。

同時に「二荒短歌会」は「下野短歌会」に吸収され、清水秀は主宰を降りて、石川暮人にあつさり主宰を譲っている。この辺りに秀のキリスト的な優しさと発想が生きていると私は強く感じている。

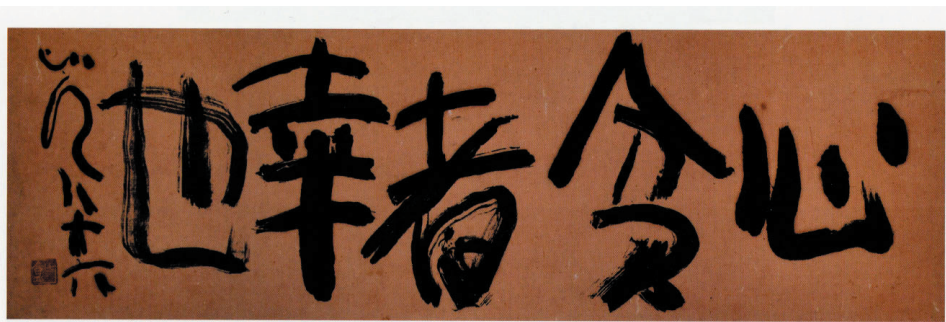
日光町長を辞任してからは清水秀の、本格的な作歌活動と言えるのではないだろうか。

多忙な転勤の日々と、日光で独り生活しながら蓄えた文化人としての基礎を元にして、新たな活動に邁進していくのだった。

◇  
昭和十七年

最愛の妻、鶴代を亡くしている。

当時の落胆は大変なものだったのだろうと家族でない私にも想像がつく、折々の変化点で大切な家族を亡くしてきた清水比庵にとって、最愛の妻が居なくなつたことは、心に大きな風穴があいたのと等しいほどの辛い出来事だったのでないだろうか。



心貧しき者は幸い也 比庵八十六歳 高梁基督教会蔵

しかし、弟の三溪や周りの方々の応援によつて、比庵の作品を世に広めるといふ趣旨で「野水会」が発足して、比庵は徐々に元気を取り戻していったそうである。

因みに野水会は、昭和三十二年まで継続することになった。

◇

昭和二十年  
第二次世界大戦のため比庵は戦火を避けて妹のいる笠岡に疎開していたそうで、ここでも短歌を教えて、笠岡地域の文化に貢献している。

◇

昭和二十一年

東京の駒込に新たに新居を構え、比庵はここを拠点に文化活動を再開するのだった。

ここを拠点に「下野短歌」に寄稿したりしながら、絵や書を書く忙しい日々が始まって行く。日本の著名な文化人と交流し、その結果、NHKに文化人として出演し、沢山の書の本や、画の本を刊行していく。

清水比庵の素晴らしさは、独特の画風と、独特の文字にあるという方もいるが、根底にあるのは、短歌という三十一文字の中に風景を閉じ込めるといふ行為があつてこそなのだ

と私は思っている。  
手に取るような景色や、そこに感じられる風の動き、匂いや音までが比庵の短歌には優しさに包まれながら表されていると思う。

これは前号で記載した通り、比庵の心の原点・キリスト教の教えから来ているものであることは間違いない。

勿論、その心を支えたのは高梁教会で信仰

告白までした、清水鶴代の支えがあつてこそだと私は考えている。

鶴代を亡くした比庵ではあつたが、若かりし頃に必死で支えた兄弟達が、兄を支える形で比庵三芸は世に広められて行つたのだと思う。

もしかしたら、比庵の父・質が亡くなった事も、書生として迎え入れた福西志計子が亡くなった事も、笹田金治郎が亡くなった事も、比庵の優しい心根を育むために神様が与えた試練だったのかもしれないと私は思っている。

◇

そして比庵は、「下野短歌会」を「窓日短歌会」に改名し、亡くなる直前に「麓短歌会」を岡山に残して、鶴代のいる神様の元に旅立つたのだった。

昭和五十年十月二十四日 跋

以上

### 外国人が見た清水比庵

比庵佳境の会 比留間 哲生

私はスコットランド出身のハリー・ホースバラ（九三歳）さんから一時英会話のお相手をして頂き長らく本当の英語のご指導を頂きました。この方は点描画家であり縁あつて三越の美術品コーディネーターとして日本を訪れ日本とイギリスの橋渡し役を担い日本を大変気に入るその後湘南に四〇年住まわれています。私から清水固さんもご紹介し一時英会



中央はホースバラさん、左は寺嶋さん、右は筆者

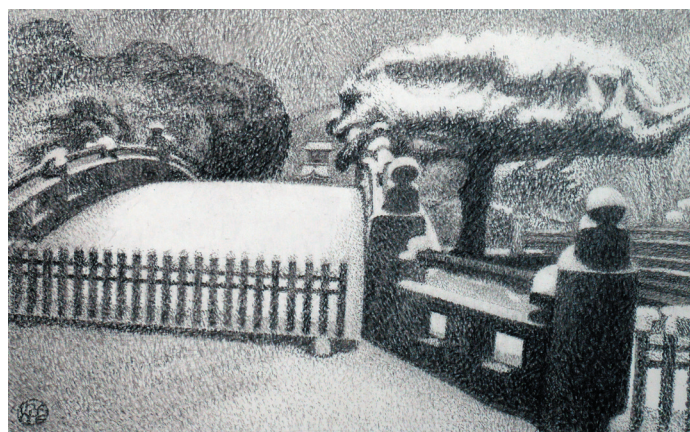
話を一緒に楽しまれました。

世界を初め日本の美術品にも非常に詳しく新国立美術館等にも何回か一緒にしました。その方の慧眼に触れたのが比庵の作品でした。「これはすごい！日本に眠らせて置く訳にはいかない。セザンヌにも匹敵する。海外で注目を浴びさせて逆輸入をすべきだ。日本人は海外で認められて初めてその偉大さに気が付く慎ましい民族だ（伊藤若冲の例）」早速、大英博物館を初め欧州の知っている美術館に紹介しようと手紙を書いてくれました。しかし残念ながらその意気込みは結実せず九三歳を迎えてしまいました。

二月四日に鎌倉八幡宮の門前に隈研吾設計により新設された英国アンティーク美術館

(B&W) において土橋館長とホースバラさんのトークショーがありお元気な姿に接しました。清水さんはお元気ですかと久しぶりの会話が弾みました。

私はまだ諦めません。カルフォルニアにおられる妹の充子さんのご家族が当地で比庵展



ホースバラさんの点描による作品

を開き大変なことが起こる予感をいつも感じているこの頃です。  
ホースバラさんのホームページもご覧ください。

<https://www.harry-art-gallery.com/>

以上

生誕一四〇年 清水比庵展  
 ～芸術に遊ぶ～

高梁市歴史美術館 三宅裕子

高梁市は岡山県の中西部に位置する人口三万人弱の小さな市です。市域には一級河川の高梁川が流れており、現存天守を持つ唯一の山城である備中松山城が聳えています。江戸時代に設置された備中松山藩では、歴代藩

主により城下町の整備等の政策が進められ発展を続け、幕末には漢学者の山田方谷が藩政改革を成功させました。改革の一つである文武奨励によって幕末期の難局を乗り切る多くの人材が輩出され、明治期にはキリスト教をはじめとする新しい文化の導入もいち早く行われました。

清水比庵は旧藩の雰囲気が残りのおかつキリスト教の影響も色濃く城下町に生まれました。旧制高梁中学校卒業まで暮らした高梁の雰囲気は、のちの比庵作品に大きく影響を

与えたのではないかと思います。  
 現在、高梁市歴史美術館では「生誕一四〇年 清水比庵展～芸術に遊ぶ～」を開催しています。初期から最晩年に至る作品約六〇点を一堂に展覧し関連資料と共に比庵の生涯や画業をご紹介します。

会期 … 令和五年二月十八日(土)～五月二十二日(月)  
 会場 … 高梁市歴史美術館  
 岡山県高梁市原田北町二二〇三一一 高梁市文化交流館 二階  
 入館料 … 一般五〇〇円、六十五歳以上・高校・大学生三〇〇円、中学生以下無料  
 開館時間 … 午前九時から午後五時まで(入館は午後四時三〇分まで)  
 休館日 … 毎週火曜日(三月二十一日は開館、翌日休館)



**SHIMIZU**  
 生誕140年  
**清水比庵展**  
 芸術に遊ぶ

令和5年  
**2.18**[土] — **5.22**[月]

入館料 … 一般500円、65歳以上・高校・大学生300円、中学生以下無料  
※高齢者・障害者等の入館料減免の適用を受ける場合は要予約  
 開館時間 … 9時～17時(入館は16時30分まで)  
 休館日 … 火曜日(ただし3月21日は開館、翌日休館)

主催 … 高梁市歴史美術館  
 後援 … 岡山県立文化財団、山陽新聞社、朝日新聞岡山支局、毎日新聞岡山支局、読売新聞岡山支局、山陽放送、NHK岡山放送局、RSK山陽放送、TSCテレビせとうち、OHK岡山放送、KSB瀬戸内海放送、RNC中国放送、FM岡山、FM56.5、ラジオエモ、倉敷ケーブルテレビ、岡山ケーブルテレビ

協力 … 高梁比庵会

【お問い合わせ】  
 ・新型コロナウイルス感染症の影響等により中止・延期する場合がございます。  
 ・ご来館に際し、マスクの着用、手指の消毒など感染予防対策にご協力ください。また体調不良の方のご来館をご遠慮させていただきます。  
 【開学祭】(部分) 同時開催

高梁市歴史美術館  
 〒716-0043 岡山県高梁市原田北町1203-1 TEL. 0866-21-0180  
**HIAN**



写真(上)は高梁市文化交流館  
 左は高梁総合文化会館の清水比庵記念室

生誕一四〇年

歌を楽しむ

清水比庵

笠岡市立竹喬美術館 金尾ちはる

笠岡市は、岡山県南西部にある人口四万五千人ほどの市です。市の南には瀬戸内海が広がり、大小三十一の島々からなる笠岡諸島があります。その内の高島、白石島、北木島、真鍋島、大飛島、小飛島、六島が有人

島です。各島には、独自の魅力にあふれた個性豊かな文化が栄えています。陸地沿岸部の干潟には「生きた化石」とも呼ばれる、絶滅危惧種のカブトガニが生息します。瀬戸内の温暖な気候と自然豊かな小さな市です。

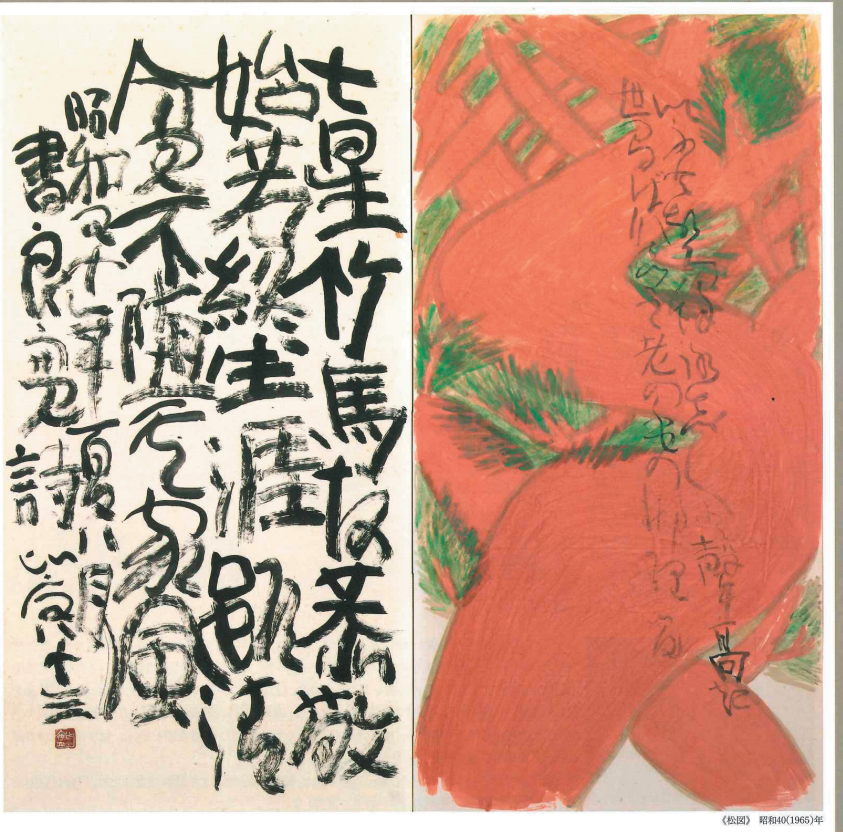
笠岡市を代表する日本画家、小野竹喬は、明治二十二（一八八九）年に笠岡で生まれました。十四歳の時に京都に行き竹内栖鳳に師事し、土田麦遷などの仲間と切磋琢磨しながら、自らの画風を模索し、次第に画家として認められます。竹喬が生涯を通じてテーマと

したのは、「自然の姿」でした。竹喬の眼は、四季の移り変わりや一日における朝から夕への微妙な変化に向けられ、作品からは自然のささやかな息遣いが伝わってきます。

笠岡市立竹喬美術館は、竹喬の業績をたえ、その功績を後生に伝えるために、昭和五七（一九八二）年一〇月に開館しました。竹喬の八九年にわたる歩みを作品によって紹介するだけでなく、竹喬に関するさまざまな資料を収集公開して、竹喬研究の拠点になることを目指しています。また、同時に、竹喬

が生きた時代の京都や岡山の日本画についても紹介に努めています。

現在、当館では、「生誕一四〇年 歌を楽しむ 清水比庵」展を開催しています。比庵は、戦時中には疎開先として、また戦後は毎年夏を笠岡で過ごすほど、笠岡に親しみ「第二の故郷」と呼んでいました。新収蔵品となった作品を始め、約七〇点の作品から、文人比庵の「歌（詩）・書・画」三位一体の世界を改めて紹介したいと思えます。ご来館お待ちしております。



（松岡） 昭和40(1965)年

# 特別陳列 生誕140年 歌を楽しむ 清水比庵

2023 2.18 SAT » 4.16 SUN

開館時間 9:30~17:00(入館は16:30まで) 休館日 毎週月曜日  
入館料 一般500(400)円 ※( )内は団体20名以上  
高校生以下は無料(学生証をご提示ください)  
65歳以上は無料(年齢のわかるものをご提示ください)

笠岡市立竹喬美術館

〒714-0087 岡山県笠岡市六番町1-17 tel. 0865-63-3967 fax. 0865-63-4496  
https://www.city.asooka.okayama.jp/site/museum/



笠岡市立竹喬美術館

会期 .. 令和五年二月十八日(土)~四月十六日(日)  
会場 .. 笠岡市立竹喬美術館  
岡山県笠岡市六番町一十七  
入館料 .. 一般五〇〇円、六五歳以上・高校生以下無料(年齢のわかるもの、学生証をご提示ください)  
開館時間 .. 午前九時三〇分から午後五時まで(入館は午後四時三〇分まで)  
休館日 .. 毎週月曜日

以上

清水比庵展・生誕一四〇年  
を終えて

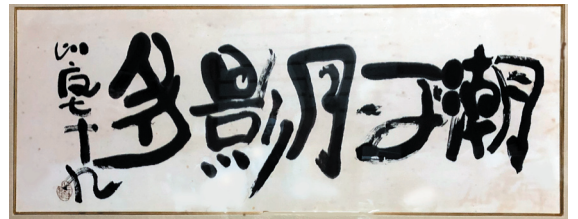
比庵佳境の会会員 山本陽一

清水比庵は、一八八三（明治一六年）二月八日生まれで、令和五年が生誕一四〇年になる。これを記念して、令和四年秋から五年にかけて、比庵と縁のある各地で生誕一四〇年清水比庵展が開かれている。

比庵佳境の会（会長清水固氏）は、地元庄戸の方々にも比庵作品を鑑賞していただくとうと、令和四年十一月二十二・二十三の両日、庄戸会館で比庵展を開催した。二十一日は比庵晴れであったが、二十三日はしぐれ模様。それでも両日合わせて約一〇〇名の来館者で賑わった。

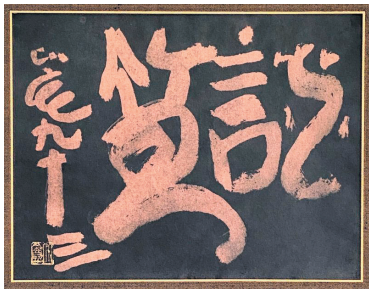
- ・展示作品の提供者、清水固氏と、岡山県笠岡市の美術商・豊池勇氏である。内訳は
- ・軸装 十七点（清水 二点、豊池 十五点）
- ・額装 十七点（清水 十六点、豊池 一点）
- ・茶碗 四点（豊池 四点）
- ・比庵の肖像写真 二点（清水 二点）。
- また、軸装・額装作品を内訳別に見ると、
- ・漢字の書 四点、漢字書と短歌 一点、
- ・短歌 三点、画と画賛短歌 二十二点、
- ・書簡 二点。

以下、印象に残った作品について私見を述べる。  
まず漢字の書から。



落款で締める。

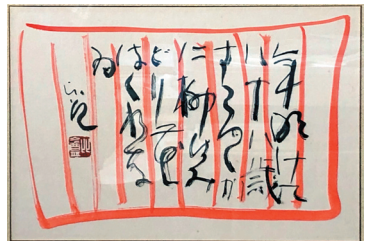
「潮平月影多」  
半折横で漢字五字。普通は字間を少しあけるが、比庵は密着させて、画数最多の「潮」を小さく、二字目から呼吸の長い太々とした線で、調子が出てきましたよと言わんばかりに、字粒を大きくゆったり運筆。常識を超えたまとめ方をしている。遠くからゆったり潮が寄せて来て、比庵七十九と



「談笑」 黒い地に、ピンクに銀が混ざった色で、「談」は小声で、「笑」はこらえきれず思わず大笑いといった調子。今回の展示作品中一番驚かされた作品。「談笑」が動なら、「静寂」は静である。

「米寿の歌」・「年明けて八十八歳すこやかに柳はみどり花はくれなゐ」

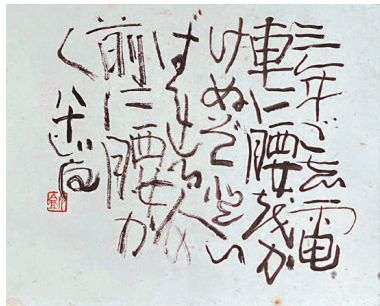
朱で大まかに線を引いて十行の枠をつくり、あまり濃くない墨でさらりと何気なく書いた歌。少し傾いた縦線で力まない太目の線



「三年し電車に腰をかけぬとぞいばれる人の前に腰かく」

（年・十・柳・り・く・れ）と、洞筆ぎみの細めの線の響合いが素晴らしい。高めの落款もよい。一行目と十行目の空白が効果的。全面に字を散らすと、散漫になる。

批評精神とユーモアあふれる一首。長生きのユツここにありと。淡墨で直線構成の字を



右に左に自然に傾けて密着させ一からまりに短歌の散らし書など古くさい。所々に濃い所があり、平板になるのを救っている。

壺の形の中に短歌「あたたかしさむしといひて物をいひかせば日々親しかりけり」



小さい軸の小さい本紙の中にぼつんと小さい壺の形が描かれ、その中にぎゅうぎゅう詰めに短歌が一首書いて

ある。一目見たとたん何て淋しげな作品かと思った。  
意味内容のないような歌だが、これが老人のつきあいのユツでもある。また、書画として書く短歌は、こういう無色透明な白湯みたいな歌が、毎日見ていると邪魔にならず、良い。内容の濃い歌を毎日見ていると体に悪い。尚、この軸の表具の裂地は、茶色の大きい格子模様で抜群に良かった。不思議な小品であった。

山の上の老松 「山の上の一つ老松誰をまつ年々来てわれは見にけり」

正に常識破りの独創の老松の形。岩のような幹の太さと、枝の曲線の対比の妙。枝と葉の密。こんな松はどこにも無かるうが、比庵のこのような形に見ることこそ、常識など吹っ飛んでしまう精神の若さである。



線画 「大池につつる向ふの灯の秋を知りたる虫の鳴くかも」

はがき判の線画は沢山あるが、大きい線画は珍しい。使われている色は目立つ順に、青、赤、黄、灰色と歌の黒の五色。歌のイメ



「先生と私」 多摩川の白瀬のみゆる山の上の若葉の間より黒き蝶とび」

戦時中、川合玉堂は青梅の御岳に疎開してあり、比庵に短歌の添削をしてもらっていた。この画は、比庵が玉堂を訪ね、多摩川を見下ろす高台で歓談する場面を玉堂が書いたもの。普通は画が先で、そこへ画賛の歌を添えるものだが、この作品は逆で、比庵が歌を書いて持って行き、そこへ玉堂が画を描いたとのこと。



右が玉堂で左が比庵。話し声が、瀬音にまじって聞こえてくるようだ。なお、玉堂が自分の姿を描いた画はこの一点のみと聞く。歌は、白瀬、若葉、黒き蝶と、奥多摩の初夏の色彩鮮やか。この軸装作品は清水家の家宝であったはず。今回の比庵展に、玉堂美術館

の方が見えられたが、固様は、この「先生と私」と玉堂が比庵に短歌の添削を乞う長文の手紙二通を額装した二点、計三点を玉堂美術館へ寄贈された。

尚、両日共、清水固氏が比庵や比庵作品について講演をされた。

以下、展覧会用の会場でない場所での展覧会がいかに大変か、分担者敬称略で触れておく。

- ・全体の統括 清水固・比留間哲生
- ・設営の段取り 比留間哲生
- ・地区センターからの備品(ついたて等) 借用と返却の手続き、借用備品運搬業者との接渉、庄戸会館使用手続、会場の看板・掲示物作成、出品目録作成・芳名録、展示案作成 山本陽一
- ・借用備品の搬入・設営と撤去・搬出返却 比留間哲生・山本陽一・小川次郎
- ・出品作品の決定 清水固・豊池勇
- ・出品作品の搬入・陳列と撤去・搬出 比留間哲生・山本陽一・豊池勇
- ・会場当番(両日) 二瓶澄慧
- ・会計 窪田信行

以上

### 清水比庵生誕一四〇年記念展 墨の美術館

墨の美術館は渋谷から東急田園都市線で三〇分の青葉台駅にある。閑静な住宅地、青葉区みたけ台に国際的な書道家、濱崎道子さんが自宅を改築し、二〇一四年に完成させた

2023年(令和5年)3月1日(水曜日)
横浜 地域情報 16

## 歌人・清水比庵 魅力に迫る

横浜青葉区青葉台の書道家濱崎道子さん(左)が運営する「墨の美術館」で二日から、歌人清水比庵の生誕百四十周年を記念する作品展が週末限定で開催される。同館はコロナ禍で休館し、再開は三年ぶり。比庵を師と仰ぐ濱崎さんは「未公開作品の展示や講演もあり、比庵の魅力をもっとの方に知っていただきたい」と来場を呼びかけている。(阿部博行)

濱崎さんは山形県新庄市を卒業後、同大芸術・書専攻に進学し、書道師としての出身で東京学芸大書道科 攻科を修し、書道師としての活動を開始。現在は、墨の美術館を運営し、比庵の魅力を多くの方に知っていただきたいと来場を呼びかけている。

### 生誕140年記念展 墨の美術館 再開 横浜

期間中はイベントも。三月十二日(日)はノンフィクション作家・井笠信二さんが「歌人・清水比庵の魅力を迫る」と題して講演をされた。

三月十三日(月)は「墨の美術館」の再開を記念して、清水比庵の生誕百四十周年を記念する作品展が週末限定で開催される。同館はコロナ禍で休館し、再開は三年ぶり。比庵を師と仰ぐ濱崎さんは「未公開作品の展示や講演もあり、比庵の魅力をもっとの方に知っていただきたい」と来場を呼びかけている。

写真は3月18日の講演会場にて左は坂口隆さん、右は濱崎道子さん、スクリーンに写っているのはアメリカから参加したワーデン充子さん

美術館です。コロナの期間中閉館していましたが、この度再開し清水比庵生誕一四〇年記念展―比庵あけくれ―を開催しました。会期は三月三日(金)から二六日(日)で、比庵の作品約三〇点が展示される。入館料五〇〇円。

期間中はイベントも。三月十二日(日)はノンフィクション作家・井笠信二さんが「歌人・清水比庵の魅力を迫る」と題して講演をされた。十八日(土)は比庵研究者・坂口隆さんによる比庵とキリスト教の関係について講演しました。十九日(日)は茶約作家・梅田曲巷さんの茶会(申込必要、参加費一〇〇〇円)。二十五日(土)は比庵の孫の清水固さんが短歌誌「窓日」について話しました。

以上

# ホームページを公開しました

比庵佳境の会幹事 比留間 哲生

昨年九月に比庵佳境の会のホームページ(HP)が公開されましたので会員の皆様にお知らせいたします。パソコンおよびいつもお使いのスマホから [hiankakyō.com](http://hiankakyō.com) と入力して検索すれば会のホームページが現れ比庵の世界がご覧いただけます。

すでに約二〇〇〇人の方が注目してヒットされています。比庵に関するあらゆる情報がご覧いただけます。是非皆様のお友達にもご紹介ください。

最新情報として今年には比庵生誕一四〇年に当たり全国で比庵展が計画されており合わせて八件の展示会が計画されています。会長からその全容をご紹介させて頂いております。会員の皆様には是非お友達をお誘いの上、ご覧頂きたく願います。



## 比庵佳境の会

清水比庵の思いを今に伝えて



### 会長挨拶



ホームページをご覧いただきありがとうございます。私は清水比庵の孫の清水固(かたし)と申します。

多くの方に清水比庵に親しんでいただきたいと思います。2013年(平成25年)に比庵ファンで構成される同好会「比庵佳境の会」を生み上げ、私は、副会長を務めております。おかげで比庵の故郷、岡山県だけでなく首都圏等にも愛好者が増え、今は、比庵の孫として大いに感謝しております。

一方で生前の比庵を知る人は僅かになり、多くの人を引き付けたその人柄についての記憶が薄れ、作品も、収集家がごくなるなどして散逸するのは時代の趨勢です。

私も今年(2022年 令和4年)で90歳になりましたが、会員の皆さんに支えられながら頑張っております。これらもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

比庵佳境の会 会長 清水 固

© Copyright 2023 比庵佳境の会. All Rights Reserved. Chik Line | Developed By Rara Themes. Powered by WordPress. プライバシーポリシー | このサイトについて | サイトマップ

ことが出来ます。その後のメンテナンスは幹事の知り合いの外部の方に頼っています。担当して頂ける会員の方がおられたら募集中です。是非幹事までご連絡いただきたくよろしく願います。

以上

# 編集後記

比庵佳境の会会長 清水 固

今年が比庵生誕一四〇年なので各地の美術館等で比庵展が開催されている。

昨年庄戸会館(清水固の町内会の会館)で開催された比庵展の記録の他、高梁、笠岡、横浜の比庵展を紹介したが

その他にも

- ① 栃木県日光市小杉放庵記念美術館  
清水比庵展 二〇二三年二月四日(土)～四月九日(日)
- ② 岡山県倉敷市きび美ミュージアム  
松坂帰庵と清水比庵展 二〇二三年一月十二日(木)～四月十一日(火)

- ③ 岡山県真庭市十字屋迎賓館 比庵作品展  
二〇二三年三月二十二日(木)～六月三日(金)
- ④ 埼玉県比企郡川島町遠山記念館  
遠山記念館のavuアングャルドたち  
二〇二三年四月一日(土)～五月二十八日(日)

⑤ 岡山県立美術館 詳細未定だが十一月十一日(土)～十二月十日(日)詳しくは比庵佳境の会のホームページをご覧ください。

笠岡市の豊池勇氏が「Facebook」でグループ「清水比庵佳境の会」を作成され、最新のニュースを発信されています。「清水比庵佳境の会」と検索してご覧下さい。

以上

会費納入のお願い  
令和5年度会費を下記に納入されますようお願いいたします。  
一口、1,000円(複数口歓迎)  
三井住友銀行鶴見支店  
普通 7061558  
名義 クボタノブユキ  
なお現金で会長「清水固」宅(下記)に郵送されても結構です。

## 比庵佳境の会

会長 清水 固(清水比庵の孫)  
〒247-0022 横浜市栄区庄戸 3-5-18  
TEL&FAX 045-893-8932  
携帯 090-6340-9181

URL : <https://hiankakyō.com>  
メール [katashi-shimizu@hat.hi-ho.ne.jp](mailto:katashi-shimizu@hat.hi-ho.ne.jp)

幹事: 比留間 哲生  
〒247-0022 横浜市栄区庄戸 3-25-7  
TEL 090-4608-0488